放課後等デイサービス　事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 5年 3月10日　　事業所名：つばめ療育館 大曲分館

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	3	2		・運動ルームが狭く、怪我に繋がりやすい。運動は前半と後半に分けて対処している。 ・運動を行う時は、時間を前半後半に分けて、十分なスペースで活動出来るようにしている。 ・スペースが十分確保されており子どもたちは快適に過ごすことができる。
	②	職員の配置数は適切である	1	4		・普段は人数が足りているが、大曲分館で急遽職員の休みがあると対応できるか不安がある。 ・利用人数に対しての職員の配置数は適切だが、部屋の数が多く死角となる場所もあるため利用児の動きしだいでは、見守りが難しいと感じる時がある。
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	2	3		
業務改善	④	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	4	1		
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5			
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5			
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	2		
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	3	2		・土曜出勤の際、研修を行う時がある。
適切な支援の提供	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	4	1		
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	3	1	1	
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っている	5			・情報共有、相談等しながら支援を進めている。
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5			・利用児の意見を取り入れながら提供するプログラムを考えている。
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	4	1		・長期休み中、所内で行う活動内容を検討して提供しているが、利用時間が長いお子さんからは「つまらない」という言葉が聞かれることがある。 ・長期休暇は体育館へ行き運動する等、平日とは別でプログラムを立て支援している。

	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	5			
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5			・支援開始前に職員の配置について、必ず確認するようにしている。
適切な支援の提供	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4	1		・振り返りは、HUGに記録すると共に口頭でも情報共有している。
	⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5			・HUGを記録した人とは別の人が、再度確認するようにしている。
	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	5			
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	3	2		
	⑳	運動（感覚統合）は安全面に配慮して行われている	4	1		・利用児へ事前にルールを伝えたり、少人数で活動する等の工夫をしている。
	㉑	その子どもに合った課題が用意されている	4	1		・指先や身体の使い方等についての課題を設定する時に、これでよいのか悩むことがある。
	㉒	身体調和支援（マッサージ）について、技術の研鑽は行われている	3	2		
関係機関や保護者との連携	㉓	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5			
	㉔	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	5			
	㉕	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	4	1		・てんかん発作に関しては、保護者から状況を聞き取り、医療機関から意見書を頂く事があった。 ・その他、医療的ケアが必要な利用児の受け入れはない。
	㉖	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	5			・情報提供書を作成している。
	㉗	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	3	2		・今後、事業所移行がある場合に向けての情報提供の方法を考えていく必要がある。 ・学校を卒業したケースがまだない。
	㉘	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	1	2	2	
	㉙	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか		1	4	
	㉚	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	1	2	2	

	㉛	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5			・お迎え時に口頭で伝える他、HUGのコメント、メッセージ、renrakuメールでもやり取りを行っている。 ・サービス担当者会議に出席し、情報共有している。 ・HUGで写真と文書で伝えている。保護者からコメントなどで質問を頂いた時も丁寧に対応するようにしている。 ・保護者には、日々HUGや口頭で活動の様子等を詳しく伝えている。
	㉜	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント･トレーニング等の支援を行っている	2	1	2	
保護者への説明責任等	㉝	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4	1		・利用前に担当者から説明を行っている。
	㉞	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4	1		
	㉟	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		1	4	・保護者会等がない。
	㊱	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	5			
	㊲	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5			・毎月のおたよりを発行している。 ・おたよりを月に一度発行し、保護者に配布している。
	㊳	個人情報に十分注意している	5			
	㊴	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	5			・言葉がけ、視覚支援等行っている。 ・絵カードや視覚化したスケジュールを提示している。
	㊵	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		2	3	
非常時等の対応	㊶	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	3	2		
	㊷	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5			
	㊸	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4	1		
	㊹	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	3	1	1	・まだこのような対応を実施したことがない。
	㊺	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3	1	1	・情報は得ていると思うが、職員に積極的な周知はされていない。 ・保護者への確認は行っている。
	㊻	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5			・サイボウズにあげて会社全体に報告している。 ・インシデント報告者を作成し、サイボウズの掲示板で共有している。 ・インシデントが起きた場合、速やかに報告書を作成し事業所内で共有している。

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、各自の評価をまとめた自己評価です。